

# NSG グループ

## 2024年3月期 第1四半期決算報告

(2023年4月1日～ 2023年6月30日)

日本板硝子株式会社  
執行役常務 CFO  
大河内聡人

2023年8月9日

# 目次

1. 2024年3月期 第1四半期決算概要
2. 2024年3月期 業績予想について
3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗
4. まとめ

CFOの大河内です。

2ページは本日のご説明内容になります。

本日は始めに2024年3月期の第1四半期決算概要および2024年3月期の業績予想について、そしてリバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗についてご説明いたします。

# 1. 2024年3月期 第1四半期決算概要

# 連結損益計算書

前年同期比増収増益、力強いスタート。  
ロシアJVの売却に伴い減損損失戻入益を計上

(億円)	4-6月期		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
売上高	1,779	<b>2,080</b>	300
営業利益	83	<b>146</b>	63
営業利益率	4.6%	<b>7.0%</b>	+2.4pt
個別開示項目 (純額)	23	△ 8	△ 31
個別開示項目後営業利益	106	<b>138</b>	32
金融費用 (純額)	△ 28	△ <b>64</b>	△ 36
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	<b>37</b>	37
持分法による投資利益	22	<b>10</b>	△ 13
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	△ 12	<b>11</b>	24
税引前利益	88	<b>133</b>	45
当期利益	33	<b>75</b>	43
純利益 *	24	<b>70</b>	46
EBITDA	180	<b>253</b>	73

グループ全体では販売数量増加および販売価格改善により全事業で増収。建築用および自動車用で増益、営業利益率は7%に改善

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年同期比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+101	+30
自動車用	+193	+39
高機能	+0	△11
その他	+5	+5
<b>グループ全体</b>	<b>+300</b>	<b>+63</b>

金利上昇に伴い金融費用が増加

ジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社の売却に伴い、過去に計上した金融債権および投資に対する減損損失の戻入益を計上

まず、4ページの連結損益計算書からご説明いたします。

ご覧の表の左側が2023年3月期第1四半期の業績、その右側が2024年3月期第1四半期の業績です。

当第1四半期の売上高は、前年同期比300億円、17%の増収で2,080億円でした。自動車用ガラス事業および建築用ガラス事業を中心に全事業において増収となりました。

営業利益は、前年同期比63億円、76%増益で146億円でした。エネルギー価格が下落する一方で、インフレ傾向に伴う原材料費や運送費、人件費等その他コスト高騰の影響を受けましたが、販売価格の改善と販売数量が増加した自動車用ガラス事業と建築用ガラス事業で改善が進みました。営業利益率は2.4ポイント上昇し、7%となりました。

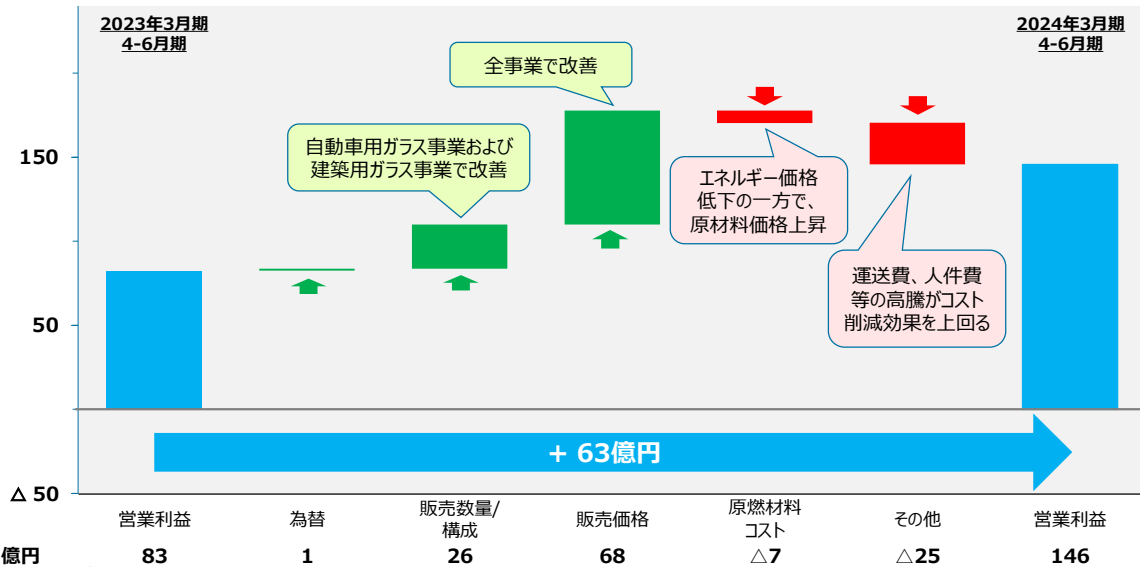
営業利益より下の項目を見て頂くと、金融費用は、金利上昇等により前年同期比36億円増となり、純額で64億円でした。

持分法適用会社については、ジョイント・ベンチャーの所有するロシア子会社の売却に伴い、過去に計上した金融債権に対する減損損失の戻入益を計上したため、持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益37億円を計上しました。また同取引に関連して投資の一部についても過去に計上した減損損失の戻入益を計上したため、持分法投資に関するその他の利益は11億円となりました。

以上、営業利益と持分法適用会社に関する利益を認識した結果、税引前利益は133億円、当期利益は75億円、純利益は70億円と前年同期比増益で力強いスタートとなりました。

# 営業利益差異分析 (4-6月期)

原材料費およびその他コスト増加の影響を販売価格改善および販売数量増加により吸収



2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

続きまして5ページは、第1四半期の営業利益について前年度第1四半期の営業利益83億円と、当第1四半期の営業利益146億円との差異63億円の差異分析です。

「為替」は、円安影響を受け1億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、主に自動車用ガラス事業および建築用ガラス事業での改善により、26億円プラスとなりました。

「販売価格」は、68億円のプラスで、これは全事業で価格が改善したことによるものです。

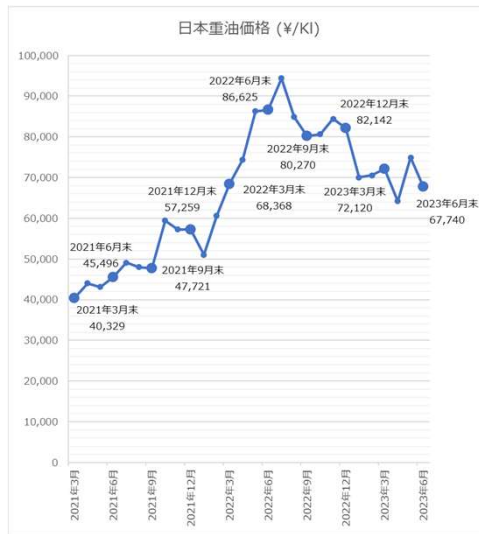
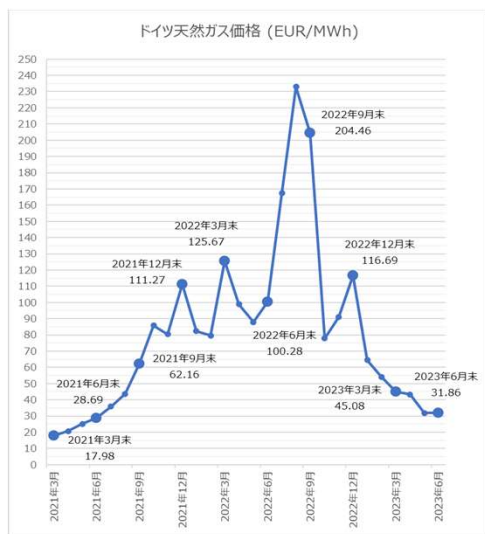
「原燃材料コスト」は、7億円のマイナスでした。エネルギー価格が低下したことによるプラスの影響は、原材料価格上昇の影響を大きく受けたためプラスの効果が相殺されました。

「その他」は、25億円のマイナスとなりました。世界的なインフレ傾向を受け、運送費や人件費などのコストが上昇し、リバイバル計画24（RP24）の施策であるコスト構造改革等の成果を上回りました。

# エネルギー価格の推移

ドイツの天然ガス価格：下落し安定的に推移

日本の重油価格：下落傾向だが依然高価格で推移



2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

続きまして、6ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、  
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格は下落し安定的に推移しました。  
日本における重油価格も下落傾向でしたが引き続き高価格で推移しています。

# ガラス価格の推移

天然ガス価格低下に伴い低下したが、原材料およびその他コスト上昇を吸収する水準で推移



こちらはドイツのガラスの市場価格の推移になります。

当第1四半期は、天然ガス価格の下落を受け低下しましたが、  
原材料およびその他コスト上昇を吸収可能な水準で推移しました。



# 連結貸借対照表



自己資本比率は12.4%と前期末比で2.2pt改善。  
 RP24の目標数値である10%超を維持

(億円)	2023年 3月末	2023年 6月末	増減	
<b>資産合計</b>	<b>9,514</b>	<b>10,000</b>	<b>486</b>	為替影響による有形固定資産の増加
非流動資産	6,151	6,612	462	
流動資産	3,363	3,388	25	仕入債務の減少
<b>負債合計</b>	<b>8,265</b>	<b>8,443</b>	<b>178</b>	長期借入金の増加
流動負債	3,844	3,604	△ 240	
非流動負債	4,421	4,839	418	為替影響および純利益の計上 自己資本比率12%超
<b>資本合計</b>	<b>1,249</b>	<b>1,557</b>	<b>308</b>	主に運転資本の増加に伴う フリー・キャッシュ・フローのマイナス および円安影響により借入金が増加
親会社の所有者に帰属する持分	970	1,245	274	
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>10.2%</b>	<b>12.4%</b>	<b>+2.2pt</b>	
<b>ネット借入</b>	<b>4,079</b>	<b>4,631</b>	<b>552</b>	

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

8

8ページは連結貸借対照表になります。

2023年6月末時点の総資産は1兆円となり  
 2023年3月末時点から486億円増加しています。

非流動資産は、円安の影響を受け有形固定資産が増加した結果  
 462億円の増となりました。

流動負債は、季節性に伴う仕入債務の減少により240億円の減となる一方で、  
 非流動負債は長期借入金の増加により418億円増加しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、為替の影響と  
 当第1四半期に純利益を計上したため274億円増加し、1,245億円に回復しました。

この結果、自己資本比率は前期末比で2.2ポイント上昇の12.4%となり、  
 RP24の財務目標数値である自己資本比率10%以上を維持できています。

ネット借入は、主に運転資本の増加に伴うフリー・キャッシュ・フローのマイナスと  
 円安の影響により借入金が増加し、552億円増加しました。

# 連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは運転資本の季節的な増加に伴いマイナス。  
通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

(億円)	4-6月期		
	2023年 3月期	2024年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 32	△ 175	△ 143
(うち、運転資本の増減)	△ 200	△ 384	△ 184
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 97	△ 141	△ 44
(うち、有形固定資産の取得)	△ 91	△ 138	△ 47
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 129</b>	<b>△ 316</b>	<b>△ 187</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	51	31
現金及び現金同等物の増減	△ 108	△ 265	△ 156
現金及び現金同等物 期末残高	520	462	△ 58

四半期利益は増加したが、季節性により運転資本が増加

戦略投資の増加および為替影響

主に運転資本の増加によりマイナスとなったが、通期でRP24の目標数値である100億円以上を目指す

9ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、第1四半期では175億円のマイナスでした。四半期利益は増加したものの、季節性により運転資本が384億円増加となったためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比マイナスが44億円増加し141億円のマイナスでした。これは、マレーシアにおける太陽電池パネル用ガラスへの設備投資をはじめとした戦略事業への投資が増加したこと、円安もあり有形固定資産の取得が増加したためです。

以上により、累計のフリー・キャッシュ・フローは316億円のマイナスとなりました。ただし、これは前述の通り季節性による運転資本増加に伴うものであり、前年に引き続き通期ではRP24の財務目標であるフリー・キャッシュ・フロー100億円以上を目指します。

# セグメント情報



(億円)	2022年3月期 4-6月期			2023年3月期 4-6月期			2024年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>645</b>	<b>44%</b>	<b>61</b>	<b>856</b>	<b>48%</b>	<b>89</b>	<b>958</b>	<b>46%</b>	<b>119</b>	<b>101</b>	<b>30</b>
欧州	278	19%		382	21%		381	18%		△ 1	
アジア	193	13%		229	13%		268	13%		39	
米州	174	12%		245	14%		308	15%		64	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>709</b>	<b>48%</b>	<b>13</b>	<b>816</b>	<b>46%</b>	<b>△ 7</b>	<b>1,009</b>	<b>49%</b>	<b>32</b>	<b>193</b>	<b>39</b>
欧州	312	21%		337	19%		425	20%		88	
アジア	151	10%		145	8%		179	9%		34	
米州	246	17%		334	19%		405	19%		71	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>114</b>	<b>8%</b>	<b>28</b>	<b>99</b>	<b>6%</b>	<b>32</b>	<b>100</b>	<b>5%</b>	<b>21</b>	<b>0</b>	<b>△ 11</b>
欧州	21	1%		21	1%		25	1%		4	
アジア	90	6%		75	4%		71	3%		△ 4	
米州	3	0%		4	0%		4	0%		0	
<b>その他</b>	<b>9</b>	<b>1%</b>	<b>△ 31</b>	<b>8</b>	<b>0%</b>	<b>△ 31</b>	<b>13</b>	<b>1%</b>	<b>△ 27</b>	<b>5</b>	<b>5</b>
<b>合計</b>	<b>1,477</b>	<b>100%</b>	<b>72</b>	<b>1,779</b>	<b>100%</b>	<b>83</b>	<b>2,080</b>	<b>100%</b>	<b>146</b>	<b>300</b>	<b>63</b>

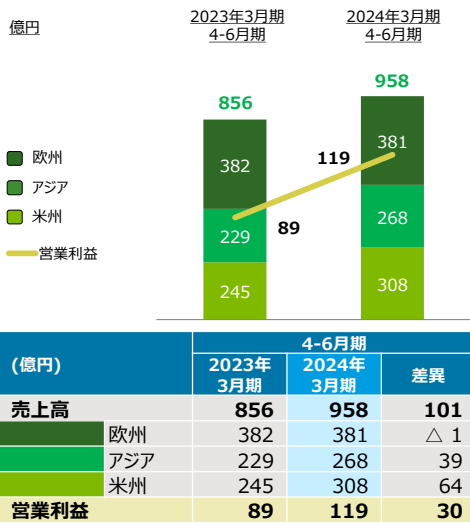
2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

10

10ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の第1四半期の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

## 建築用ガラス事業 (増収・増益)

欧州で販売数量減少だが、その他地域での強い需要により増収。  
 原材料およびその他コスト上昇を販売価格および販売数量の改善により吸収し、増益



### 欧州 (減収・減益)

- 経済活動の減速に伴い販売数量が減少
- 原材料およびその他コスト上昇と販売数量減少の影響を販売価格改善により一部軽減

### アジア (増収・増益)

- 日本では需給改善に伴い販売価格および販売数量が改善
- その他アジアでは競合激化により販売価格が低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

### 米州 (増収・増益)

- 北米では底堅い市場環境を反映し販売価格が上昇
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調
- 南米は強い需要が継続、アルゼンチンの新フロート窯稼働もあり販売数量増加

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

11ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、強い需要と価格改善を背景に増収となりました。  
 営業利益は、原材料費および運送費、人件費高騰の影響を受けましたが、  
 販売価格の改善および販売数量の増加により吸収し増益でした。

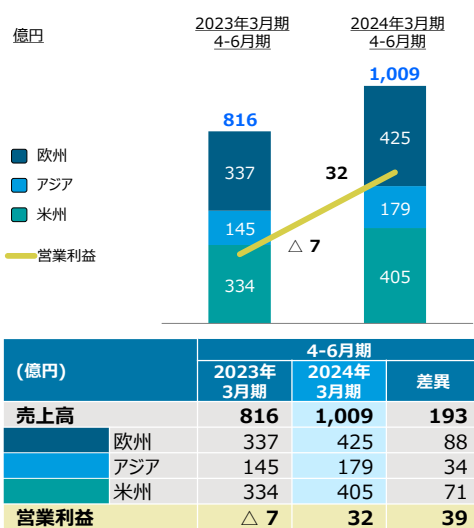
欧州は、減収減益となりました。  
 中長期的には新築のみならずリフォームによる底堅い需要が見込まれるものの、  
 インフレの進行と金利上昇により経済活動が減速し、販売数量が減少しました。  
 エネルギー価格は下落し安定的に推移した一方で、インフレ傾向を反映して  
 原材料費や運送費、人件費を中心としたその他コストが上昇しました。  
 それらの影響は、販売価格の改善により一部軽減したものの、減益となりました。

アジアは、増収増益でした。  
 日本では、断熱ガラスに対する政府補助金制度の施行等による需給の改善に伴い、  
 販売価格と販売数量が増加しました。  
 その他の国々では、競合環境の激化の影響を引き続き受け、  
 販売価格が低下しています。  
 太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調に推移しています。

米州も、増収増益となりました。  
 北米は、底堅い市場環境を反映して国内需要は強く、販売価格が増加しました。  
 太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。  
 南米は、強い需要が継続しており、前年度第3四半期に稼働した  
 アルゼンチンの新フロート窯による販売数量増加も、収益に寄与しました。

# 自動車用ガラス事業 (増収・増益)

自動車生産制約の緩和に伴う販売数量増加および販売価格改善の進捗により全地域で増収増益



欧州 (増収・増益)  
 アジア (増収・増益)  
 米州 (増収・増益)

- 部品不足による自動車生産制約の影響が緩和し、多くの地域で販売数量が増加
- 原材料およびその他コスト増加を転嫁するための価格改善交渉は引き続き進捗、販売価格が改善
- 引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を推進

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

12ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、増収増益でした。

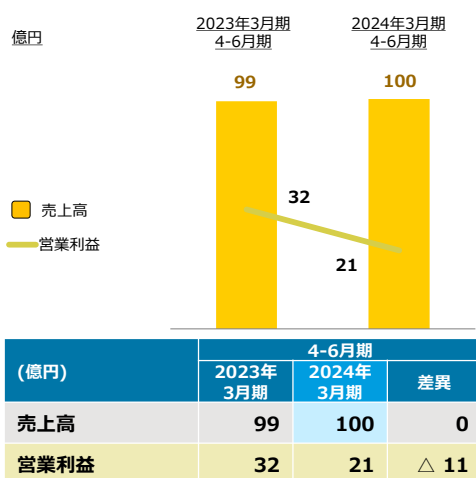
サプライチェーンの問題による自動車生産の制約が緩和し、多くの地域で販売数量が増加しています。

また、原材料および運送費や人件費等その他コスト上昇の影響を緩和するための自動車メーカーに対する価格改善交渉も引き続き進展し、全地域で販売価格が改善しました。

引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

## 高機能ガラス事業 (増収・減益)

売上高は横ばいだが、原燃材料およびその他コスト上昇と売上構成の悪化により減益



- ファインガラスでは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少  
売上構成も悪化
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けの需要が減少
- グラスコードは自動車生産制約の緩和に伴い回復
- メタシャイン® は自動車塗料および化粧品向けで増加

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

13

続きまして13ページです。

高機能ガラス事業は、  
売上高は横ばいでしたが、営業利益は原燃材料およびその他コスト上昇と  
売上構成悪化の影響を受け、減益となりました。

ファインガラスは、IT市場減速の影響を受け販売数量が減少し、  
売上構成の悪化もあり収益性が低下しました。

プリンター用レンズは、在宅勤務およびオンライン授業向けの需要が減少したことに伴い、  
販売数量が減少しました。

グラスコードの販売数量は、取引先におけるサプライチェーンの問題が  
解消したことに伴い回復しました。

メタシャイン®は自動車塗装および化粧品向けで売上高が増加しました。

## 2. 2024年3月期 業績予想について

# 2024年3月期 業績予想の前提

グループ	<b>第1四半期実績を踏まえ上期・通期の売上高・営業利益・税引前利益・当期利益・純利益予想を上方修正 RP24の最終年あたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>当初想定より円安を見込む</li> <li>ロシアJV売却に伴う過去の減損損失の戻入益を計上</li> <li>エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続</li> <li>金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明、金融費用も増加</li> </ul>
建築用ガラス	<b>良好な需給環境継続を期待、一方で欧米を中心に景気後退懸念</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：エネルギー価格は落ち着くが原材料費高騰が続き、価格転嫁も継続。販売数量は減少の見込み</li> <li>アジア：日本の数量および価格が回復するが、その他アジア地域での競合状況を注視</li> <li>北米：市場は好調継続ながら利上げによる景気後退懸念</li> <li>南米：タイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献</li> <li>太陽電池パネル用ガラス：堅調な需要が続き、マレーシアで生産設備が稼働予定、米国でも拡大検討中</li> </ul>
自動車用ガラス	<b>原燃材料費高騰の影響が続くが、販売数量は増加する見込み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全地域で強い自動車需要と在庫積み上げが継続</li> <li>自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復していく見込み</li> <li>自動車メーカーとの価格改善交渉を継続</li> <li>コスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により更なる収益性改善を目指す</li> </ul>
高機能ガラス	<b>コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受け利益率低下</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファインガラスは、コスト削減を継続するが、市場減速の影響を受ける見込み</li> <li>プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業に伴う需要減少により販売数量減少の見込み</li> <li>グラスコードは、自動車生産の制約解消に伴い販売数量が徐々に回復していく見込み</li> </ul>

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

15

続いて2024年3月期の業績予想です。

スライド15は、2024年3月期業績予想の前提を示しています。

今般、2024年3月期の上期と通期の売上高、営業利益、税引前利益、当期利益、純利益の予想をそれぞれ上方修正しました。

これは主に建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業で第1四半期の業績が想定を上回ったこと、ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却に伴う過去の減損損失の戻入益を計上したこと、および当初想定より円安を見込んだためです。一方で、エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大などの影響を受け原材料や運送費、人件費等その他のコストが増加すると見えています。また、欧米を中心とした金利上昇に伴う潜在的な景気後退などのリスクにより、事業環境は依然不透明であり、金融費用も増加を見込んでいます。引き続きコスト削減努力、高付加価値製品の拡大、価格改善などに取り組むことにより、これらの潜在的リスクの影響を低減し、収益力の向上に注力してまいります。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業は、

欧州では、天然ガスを中心とした燃料価格は落ち着くものの、原材料費高騰が継続すると見えています。

これらの影響は、販売価格への転嫁で軽減しますが、販売数量が減少する見込みです。

アジアでは、需給環境の改善に伴い、日本では数量増加と、値上げ効果も継続すると見えています。

その他アジア地域では競合状況を注視する必要があります。

北米では、底堅い経済活動に伴い域内市場の好調な需要が期待されるものの、利上げによる景気後退が懸念されます。



南米ではタイトな需給環境が継続、アルゼンチンの新フロート窯の通年稼働が貢献する想定です。

太陽電池パネル用ガラスは、堅調な需要を継続すると見込んでいます。

なお、2024年3月期第3四半期の生産開始に向けて

マレーシアでオンラインコーティング設備の建設が順調に進捗しています。

また、米国でも拡大に向けて検討中です。

自動車用ガラス事業では、

原燃材料費高騰の影響は続きますが、全地域で強い自動車需要と在庫積み上げの動きが継続するため販売数量が増加する見込みです。

また、自動車メーカーとの価格改善交渉は継続する計画です。

引き続きコスト削減、高付加価値製品の拡大、価格改善を進め、

更なる収益力の向上を目指します。

高機能ガラス事業では、

投入コスト上昇およびIT市場の減速に伴う需要減少の影響を受けます。

価格改善を継続していくものの、高騰した原燃材料費やその他の費用を吸収するには至らず、利益率が低下すると見えています。

# 2024年3月期 業績予想



当初想定を上回るQ1業績とロシアJVの売却に伴う戻入益計上を踏まえ、上期・通期ともに上方修正

(億円)	2024年3月期 予想 (前回)		2024年3月期 予想 (今回)		増減		2023年3月期 通期実績 (参考)
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	
売上高	3,700	7,600	4,200	8,400	500	800	7,635
営業利益	140	300	190	350	50	50	348
個別開示項目 (純額)	10	10	0	0	△ 10	△ 10	△ 452
個別開示項目後営業利益 (△損失)	150	310	190	350	40	40	△ 103
金融費用 (純額)	△ 110	△ 220	△ 130	△ 260	△ 20	△ 40	△ 174
持分法適用会社に対する 金融債権の減損損失の戻入益	-	-	40	40	40	40	-
持分法による投資利益	30	70	20	60	0	0	73
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)			10	10			△ 15
税引前利益 (△損失)	70	160	130	200	60	40	△ 219
当期利益 (△損失)	40	90	90	130	50	40	△ 310
純利益 (△損失)*	30	70	80	110	50	40	△ 338

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失) 16

スライド16ページに移ります。

こちらが2024年3月期の上期および通期業績予想になります。

表の左側から、2024年3月期の前回上期・通期予想、  
今回上期・通期予想と増減、前年2023年3月期通期実績と並んでおります。

先ほどご説明した通り、

上期および通期の売上高、営業利益、税引前利益、当期利益、純利益を  
それぞれ上方修正しています。

営業利益は第1四半期の業績および円安予想を踏まえ上期190億円、通期350億円の  
見通しです。

金融費用は金利上昇に伴い増加を想定しており上期で130億円、通期で260億円と見て  
います。

RP24の最終年度として、全社的なコスト削減、高付加価値製品の拡大および  
価格改善により潜在的なリスクの影響を軽減し、  
引き続き収益性の改善と通期業績予想の達成に注力してまいります。

### 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

# リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



持続的な成長が可能な事業体質を目指し主要施策を推進

## 3つの改革

### ● コスト構造改革

- ・ 営業利益率改善を目指し引き続きコスト削減を継続

### ● 事業構造改革

- ・ アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- ・ マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備建設が順調に進捗（2024年3月期第3四半期より生産開始予定）
- ・ 米国でも太陽電池パネル用ガラスの生産能力拡大に向けて検討中
- ・ 英国でガラス生産ラインを統合し、1窯でフロート板ガラスおよび型板ガラスを生産可能に

### ● 企業風土改革

- ・ 4月1日より新CEOが就任、4つの「F」（Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定+職場におけるFun）をモットーに企業風土改革の推進を加速、トップ自らが率先し「リーダーシップ行動憲章」を体现



型板ガラス生産ライン移設先のグリーンゲート事業所（英国）



4つの「F」についてタウンホールミーティングで話す新CEOの細沼

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告 RP24 説明資料:  
[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

18

リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革について、18ページと19ページで主要な進捗を説明します。

2024年3月期も中期経営計画RP24の最終年として主要施策を継続、推進しました。

RP24では持続的な成長が可能な事業体質を目指して「3つの改革」と「2つの重点施策」を掲げています。

「3つの改革」の中の一つである「コスト構造改革」では、営業利益率の改善を目指し「改革・改善」活動を中心としたコスト削減を継続しています。

「事業構造改革」では、高付加価値事業の拡大・新規成長分野の育成を進めています。アルゼンチンで2基目となる新フロート窯が前年度第3四半期から生産を開始し、収益に貢献しています。

太陽電池パネル用ガラスはすでに当社の収益とともに環境にも貢献していますが、ファーストソーラー社のアジアでの生産能力拡張方針に沿ってマレーシアの既存フロート窯にオンラインコーティング設備を新設する建設工事が順調に進捗中です。2024年3月期の生産開始を目指しています。

また米国においても、ファーストソーラー社の米国での生産能力拡張方針に沿って、太陽電池パネル用ガラスの拡大を検討中です。

英国では板ガラスおよび型板ガラスの生産ラインを統合し、単一の溶融窯で板ガラスおよび型板ガラスの生産を可能にする設備投資の決定をしました。この集約により、コスト削減にもつながるとともに年間15,000トンの二酸化炭素の排出量削減が可能になります。

これらの取り組みにより事業の脱炭素に向けた活動を加速させ、「高付加価値の『ガラス製品とサービス』で社会に貢献するグローバル・ガラスメーカー」として「地球環境の保護」に貢献することを目指します。

「企業風土改革」では、4月1日より新CEOが就任し、4つの「F」から始まるキーワードをモットーに企業風土改革の推進を加速しています。タウンホールホールミーティング等で「Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定+職場におけるFun」についてことあるごとに言及し、前年度に作成した、シニアリーダーが示すべき行動宣言からなる「リーダーシップ行動憲章」をトップ自らが体現しています。

# リバイバル計画24(RP24)に基づく構造改革施策の主な進捗



## RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進

### 2つの重点施策

#### ● 財務基盤の回復

- ・ 営業利益率：原材料費高騰の下、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により7%に改善
- ・ 純利益：好調な業績およびジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、Q1時点で70億円となる
- ・ 自己資本比率：前期末より2.2pt改善し12.4%と目標数値である10%を上回る
- ・ FCF：季節的な運転資本増加を除くとプラス、通期での目標数値である100億円以上達成を目指す

#### ● 高収益事業へのポートフォリオ転換

- ・ ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却を完了

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

RP24 説明資料:

[https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021\\_j01.pdf](https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtprp24presentation2021_j01.pdf)

19

続きまして、RP24に基づく構造改革の「2つの重点施策」についてご説明します。

「財務基盤の回復」については、RP24の財務目標数値として営業利益率8%、純利益3年累計300億円、自己資本比率10%、フリー・キャッシュ・フロー100億円の目標を設定し、推進しています。

営業利益率は原材料およびその他コスト上昇の中、コスト削減、高付加価値製品の拡大、販売価格上昇により前年同期比で2.4ポイント上昇し、7%に改善しました。

純利益についても、好調な業績やロシアにおけるジョイント・ベンチャー売却に伴う戻入益の計上もあり、当第1四半期時点で70億円となっています。

自己資本比率は前期末から2.2ポイント改善し12.4%となり、財務目標数値超を維持しています。

フリー・キャッシュ・フローは季節的な運転資本増加を除くとプラスでした。

通期での目標数値である100億円以上の達成を目指します。

「高収益事業へのポートフォリオ転換」については、当社グループのジョイント・ベンチャーが所有するロシア子会社の売却を完了しました。

## 4. まとめ

# まとめ



## 1. 2024年3月期 第1四半期決算

- 前年同期比増収増益の力強いスタート。ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却に伴い、減損損失戻入益を計上
- 原材料費およびその他コスト増加の影響を販売価格改善および販売数量増加で吸収
- 建築用ガラス事業の好調が継続、自動車用ガラス事業でも販売数量が回復、価格転嫁も進捗し収益改善
- グループ全体の営業利益率は7%まで上昇
- 自己資本比率はRP24の財務目標数値である10%超

## 2. 2024年3月期 業績予想

- 第1四半期実績を踏まえ上期および通期の売上高・営業利益・税引前利益・当期利益・純利益予想を上方修正
- エネルギー価格は落ち着くものの、世界的なインフレ拡大等で原材料やその他コスト増加は継続
- 金利上昇による潜在的な景気後退などのリスクにより事業環境は依然不透明、金融費用も増加

## 3. リバイバル計画24 (RP24) に基づく構造改革施策の主な進捗

- 事業構造改革：マレーシアの既存フロート窯で、太陽電池パネル用ガラスのオンラインコーティング設備新設が進捗  
アルゼンチン2基目の新フロート窯が収益に貢献
- 財務基盤の回復：好調な業績に伴い営業利益率はグループ全体で7%に上昇、自己資本比率は12%超まで回復  
RP24の最終年にあたり、引き続き重点施策「財務基盤の回復」を推進
- 高収益事業へのポートフォリオ転換：ロシアにおけるジョイント・ベンチャーの売却を完了



## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料



- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
売上高	1,477	1,430	1,523	1,576	1,779	1,977	1,906	1,973	2,080
営業利益 (△損失)	72	55	18	55	83	62	97	107	146
営業利益率	4.8%	3.9%	1.2%	3.5%	4.6%	3.1%	5.1%	5.4%	7.0%
個別開示項目 (純額)	△ 2	47	△ 2	△ 7	23	△ 473	10	△ 12	△ 8
個別開示項目後営業利益 (△損失)	70	102	17	48	106	△ 411	107	94	138
金融費用 (純額)	△ 29	△ 29	△ 32	△ 34	△ 28	△ 37	△ 48	△ 61	△ 64
持分法適用会社に対する金融債権の 減損損失の戻入益 (△損失)	-	-	-	△ 34	-	-	-	-	37
持分法による投資利益	15	19	22	19	22	10	21	20	10
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	-	-	△ 34	△ 12	5	△ 4	△ 4	11
税引前利益 (△損失)	55	92	7	△ 36	88	△ 434	77	49	133
当期利益 (△損失)	29	67	10	△ 38	33	△ 403	22	38	75
純利益 (△損失)*	25	61	0	△ 45	24	△ 412	17	34	70
EBITDA	165	146	111	144	180	161	202	207	253

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

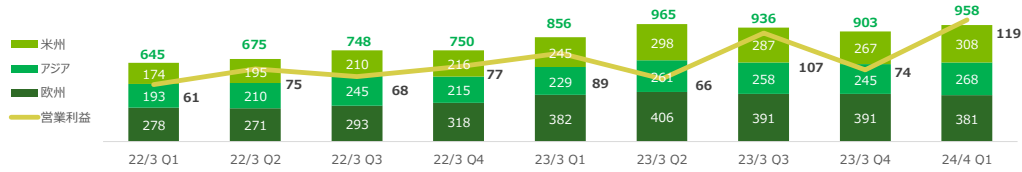
24

# 事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

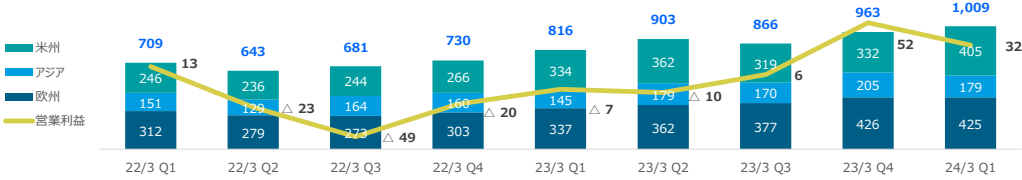


単位：億円

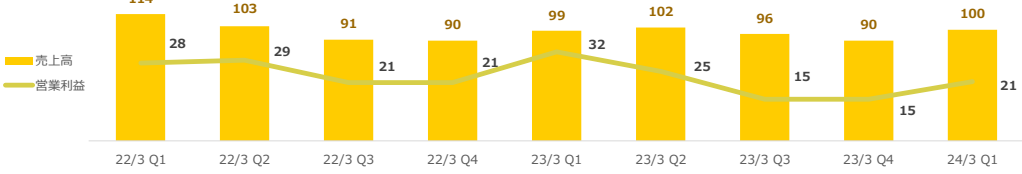
## 建築用ガス事業



## 自動車用ガス事業



## 高性能ガス事業



# セグメント情報



(億円)	2022年3月期					2023年3月期					2024年
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	3月期
<b>売上高: 建築用ガラス</b>	<b>645</b>	<b>675</b>	<b>748</b>	<b>750</b>	<b>2,818</b>	<b>856</b>	<b>965</b>	<b>936</b>	<b>903</b>	<b>3,659</b>	<b>958</b>
欧州	278	271	293	318	1,160	382	406	391	391	1,571	381
アジア	193	210	245	215	862	229	261	258	245	992	268
米州	174	194	210	216	795	245	298	287	267	1,096	308
<b>営業利益</b>	<b>61</b>	<b>75</b>	<b>68</b>	<b>77</b>	<b>281</b>	<b>89</b>	<b>66</b>	<b>107</b>	<b>74</b>	<b>336</b>	<b>119</b>
<b>売上高: 自動車用ガラス</b>	<b>709</b>	<b>643</b>	<b>681</b>	<b>730</b>	<b>2,762</b>	<b>816</b>	<b>903</b>	<b>866</b>	<b>963</b>	<b>3,547</b>	<b>1,009</b>
欧州	312	279	273	303	1,167	337	362	377	426	1,502	425
アジア	151	129	164	160	604	145	179	170	205	699	179
米州	246	236	244	266	992	334	362	319	332	1,347	405
<b>営業利益</b>	<b>13</b>	<b>△ 23</b>	<b>△ 49</b>	<b>△ 20</b>	<b>△ 79</b>	<b>△ 7</b>	<b>△ 10</b>	<b>6</b>	<b>52</b>	<b>41</b>	<b>32</b>
<b>売上高: 高性能ガラス</b>	<b>114</b>	<b>103</b>	<b>91</b>	<b>90</b>	<b>398</b>	<b>99</b>	<b>102</b>	<b>96</b>	<b>90</b>	<b>388</b>	<b>100</b>
欧州	21	18	20	20	79	21	25	22	27	95	25
アジア	90	82	68	66	306	75	73	70	58	276	71
米州	3	3	3	4	13	4	5	4	4	16	4
<b>営業利益</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>99</b>	<b>32</b>	<b>25</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>87</b>	<b>21</b>
<b>売上高: その他</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>9</b>	<b>18</b>	<b>41</b>	<b>13</b>
<b>営業利益</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 25</b>	<b>△ 22</b>	<b>△ 24</b>	<b>△ 101</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 19</b>	<b>△ 31</b>	<b>△ 34</b>	<b>△ 115</b>	<b>△ 27</b>
<b>売上高: 合計</b>	<b>1,477</b>	<b>1,430</b>	<b>1,523</b>	<b>1,576</b>	<b>6,006</b>	<b>1,779</b>	<b>1,977</b>	<b>1,906</b>	<b>1,973</b>	<b>7,635</b>	<b>2,080</b>
<b>営業利益</b>	<b>72</b>	<b>55</b>	<b>18</b>	<b>55</b>	<b>200</b>	<b>83</b>	<b>62</b>	<b>97</b>	<b>107</b>	<b>348</b>	<b>146</b>

2023年8月9日 | 2024年3月期 第1四半期決算報告

## 地域別売上高および営業利益



(億円)	2023年3月期 4-6月期			2024年3月期 4-6月期			増減	
	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	%	営業利益 (△損失)	売上高	営業利益 (△損失)
欧州	740	42%	24	831	40%	25	91	1
アジア	449	25%	50	518	25%	82	69	31
米州	582	33%	40	718	35%	66	135	27
その他 *	8	0%	△ 31	13	1%	△ 27	5	5
合計	1,779	100%	83	2,080	100%	146	300	63

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

## 個別開示項目

(億円)	2023年3月期	2024年3月期
	4-6月期	4-6月期
非流動資産の減損損失	△ 2	△ 5
棚卸資産の評価減	-	△ 2
係争案件の解決に係る収益 (△費用) 純額	26	△ 0
リストラクチャリング費用	△ 0	△ 0
その他	△ 0	0
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>23</b>	<b>△ 8</b>

# 為替レート・為替感応度



## 期中平均レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	153	152	153	153	163	163	164	163	172
ユーロ	132	131	131	130	138	139	140	141	150
米ドル	109	109	112	112	129	134	137	135	138
ブラジル・レアル	20.6	20.8	20.7	21.0	26.4	26.4	26.5	26.3	27.7
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用								

2024年 3月期
期初見直し
160
134
134
24.8

## 期末レート

	2022年 3月期				2023年 3月期				2024年 3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
英ポンド	153	150	156	160	165	161	160	165	183
ユーロ	132	129	131	136	142	141	140	145	158
米ドル	111	112	116	122	136	145	132	133	145
ブラジル・レアル	22.3	20.6	20.4	25.5	26.2	26.7	25.7	26.2	29.8
アルゼンチン・ペソ	1.16	1.13	1.12	1.10	1.09	0.98	0.76	0.64	0.57

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2023年 3月期
資本	30.0億円の減少
当期損失	4.0億円の改善



## 減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2023年3月期 4-6月期	2024年3月期 4-6月期	2024年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>98</b>	<b>108</b>	<b>440</b>
<b>資本的支出</b>	<b>62</b>	<b>110</b>	<b>477</b>
通常投資	54	80	
戦略投資	8	30	
<b>研究開発費</b>	<b>22</b>	<b>22</b>	<b>100</b>
建築用ガラス事業	7	8	
自動車用ガラス事業	6	7	
高機能ガラス事業	2	2	
その他	7	5	

# NSG

GROUP